トップニュース

10月16日には報恩講作法がつとめられ、明著堂でご門主が報恩講私記を拝読された

親鸞聖人への感謝の思い新たに

浄土真宗を開かれた親鸞聖人の恩徳に報謝する「報恩講」が全国各地の寺院などで営まれている。聖人のご廟所である大谷本廟（＝本願寺飛地境内、京都市東山区）では10月15、16日、大谷本廟の報恩講である「龍谷会」が厳かに営まれた。

境内の白洲には参拝席が設けられ、明著堂で法要が営まれた。15日は午後2時から前門さまご出座のもと「奉讃大師作法」、16日は午後1時からご門主御導師のもと「報恩講作法」をおつとめ。法要の前後には庭儀が行われ、導師を中心とした僧侶や参儀衆（本願寺総代・参与）、講社の人らの列が厳かな雅楽の演奏とともに参進した。

また、仏殿には聖人のご生涯を描いた「御絵伝」（聖人のご遺徳を讃仰するために第3代覚如上人が制作した絵巻物『親鸞伝絵』の図画部分）が奉懸され、15日の法要後には『御俗姓』（聖人のご事績を述べ、門徒の心得を説いた第8代蓮如上人の御文章）と「御伝記」（『親鸞伝絵』の詞書部分）が拝読された。

16日に神戸市から参拝した大下義徳さん(53)は「厳かなおつとめだった。家族や両親の遺骨を納めている縁で納骨・永代経総追悼法要（6月）や彼岸会など、大谷本廟の法要にはお参りするようにしている」、また、京都府大山崎町の山本幸代さん(79)は「本願寺さんには50年以上前から必ず月2回お参りしているが、龍谷会は初めて。15日にお参りし、雅楽や庭儀が素晴らしく、心がとても安らいだので、2日続けて来させてもらった。これから毎年参らせてもらいたい」と話した。

大谷本廟で龍谷会

報恩講私記(式)　親鸞聖人の曾孫である本願寺第3代覚如上人が永仁2(1294)年、聖人の33回忌にあたり、そのお徳を讃え、ご恩に報謝するために著され、聖人の御影の前で奉読された。これが報恩講の始まりとされている。

龍谷大学で報恩講

キャンパスで啓発イベント

宗門校の龍谷大学（入澤崇学長）は10月18日、深草（京都市伏見区）、大宮（同下京区）、瀬田（大津市）の全キャンパスで報恩講法要を営んだ。また、18日までの1週間を「顕真週間」と銘打ち、学生や地域の人たちに仏教に触れてもらおうと、宗教局6サークル(伝道部、合唱団、宗教教育部、仏教青年会、仏像研究会、パイオニアクラブ)がさまざまなイベントを行った。

39回目となる顕真週間のテーマは、親鸞聖人が『正像末和讃』に書かれた「灯炬」という言葉。実行委員長の文学部真宗学科4年・山本蛍太さんは「世界各地の戦火の根本原因は煩悩にある。そんな『煩悩の火』ではなく、阿弥陀さまが常に私を照らし、導いてくださる『灯炬』の灯火を依りどころに生きていくことの大切さを伝えたい」とテーマに込めた思いを語った。

学生僧侶による朝法話、腕輪念珠づくり（写真右上）、映画『福田村事件』の森達也監督を招いての宗教文化講演会、仏教をモチーフにした謎解き脱出ゲーム、学生僧侶らが法衣姿を披露する法衣ファッションショーなどを、深草キャンパスを中心に実施。学内外の500人以上が詰めかけた。スタッフのTシャツの背には、ろうそくをモチーフにした顕真週間マスコットキャラ「ろうそくん」が描かれていた（写真下）。

心理学部1年の松井優太さんはサンドキャンドルづくりに参加。「ろうそくづくりは仏教っぽくて面白い」と話した。スタッフの国際学部3年・宮本紋安さんは「法要など、お寺にかかせないろうそくはインテリアとしても人気があるので、仏教に興味を持ってもらえるのではと思った」と狙いを語った。

山本実行委員長は「顕真週間を通じて、1人でも多くの学生や地域の人たちに浄土真宗や仏教を身近に感じてもらい、仏教や浄土真宗の教えに基づく新たな価値観に触れるご縁にしていただければ」と話した。

10月18日は、同大学の前身である「学寮」を設立された本願寺第13代宗主良如上人の祥月命日。同大学ではこの日を報恩講と定めている。

逢坂憲吾の 四季折々に 境内を歩いて

目隠塀と逆さ銀杏

ご本山の御影堂門の前に立つと、必ず見えてくる「目隠塀と逆さ銀杏」。重要文化財の御影堂門と目隠塀、天然記念物の逆さ銀杏、そしてその後ろには御影堂と、ここから見える風景全てが西本願寺の歴史そのもの、という景色です。

この写真は、後ろの逆さ銀杏と手前の灯籠の色合いとコントラストを見せる意図で、正午ごろに撮影をしました。朝、昼、夕と太陽の位置が移り変わることで、灯籠や塀、銀杏の見え方が変わり、これに季節が加わるとより一層風景としての面白みがあります。

そして今、この原稿を書きながら改めて気付かされたことがあります。おそらく、この光景は400年近くほぼ変わらぬ光景であったこと。江戸から明治、大正、昭和、平成、そして令和の現在まで、ほぼ同様の光景を今なお目にすることができるのは、先人の皆さんのおかげなのだと、改めて気付かされた1枚です。

撮影データ
カメラ GFX100S
レンズ GF100-200mm F5.6 R LM OIS WR
158mm相当
f8 S.S1/125 ISO200

本願寺新報
hongwanji journal

11月1日(金曜日)
毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

御本山御用達
開明社々員
京法衣事業協同組合加盟
satsumaya KYOTO
株式会社 さつま屋法衣店
〒600-8334 京都市下京区油小路通六条下ル
TEL 075-351-1548(代) FAX 075-351-1008
0120-310-063
https://satsumaya.kyoto

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光白光

英国の随筆家、オリバー・バークマン氏が出した『限りある時間の使い方』という書物が、世界中で読まれているという。冒頭にある「80歳くらいまで生きるとして、あなたの人生は、たった4000週間だ」のことばは、特にズシリと心に響く。

▼ある人は「生き方を見つめ直すことば」といい、ある人は「あと何週間と思うと切迫感にかられる」という。例えば、これから30年先といえば遠く感じるが、1560週といえば近く感じる。年齢にもよるが、1日1日が早く過ぎていく。若い頃はゆっくり歩くように過ぎていった時間が、だんだん大股になり、そして早足、さらにかけ足で過ぎていく。どうしてもあせりが出てしまう。

▼オリバー氏は「4000週間」という限られた時間をどう過ごすかという、いわゆるタイムマネジメント術を語っているのではない。理想の未来を追い求め、生産性を高めようと時間を管理すればするほど、人は不安に陥ってしまうと警鐘を鳴らし、現実を直視し、「ちっぽけな自分を受け入れる」ことを勧めている。非常に重い意味を持つことばだと思う。

▼これまで仏教に触れることが少なかったある方に月刊誌「大乗」の購読を勧めたことがあった。その方から先日、「『大乗』は、生きていく道しるべになる」ということばをいただいた。未来に不安を持ちながら、いつも時間に追い立てられて生きている我々が、本当に安心できるものは何か。その安心を阿弥陀如来からいただくのが浄土真宗である。

福岡支局 〒812ー0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

● 華遇記 …… 藤井 真
● DAIJO法話 …… 眞壁 法城
● ご機言！お寺の掲示板 …… 江田 智昭
● 結婚してお坊さんになりました …… 前田 純代
● なるほど仏教ライフ …… 西原 祐治
● 御文章をいただく …… 満井 秀城
● みのりのエッセー …… 西村 慶哉
● ほうわ・HOWA・法話 …… 貫名 譲
―― その他コーナー多数！

プディストマガジン 大乗 DAIJO 11月号
本日発売！
毎月1日発行
B5判／80ページ
年間購読料 4,500円(税・送料込)
1冊 375円(税・送料込)
本願寺出版社
0120-464-583
FAX075-341-7753
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/

最新刊
浄土真宗本願寺派 意訳付き『日常勤行聖典』が待望の大判に!!
大活字版
日常勤行聖典
解説と聖典意訳
豊原大成 編著（本願寺派元総長）
B5判
正信偈・讃仏偈・重誓偈・阿弥陀経・御文章が現代語で味わえる大好評『日常勤行聖典』を、大判・大活字で見やすく編集（判型は通常版の2倍、文字ポイント約1・4倍）。法要や作法の解説付き。
B5判・並製・120頁　880円
＊50部以上1割引／100部以上2割引
原寸（本書より）
同音にょぜがもんいちぶ
如是我聞・一時
私は、このように聞いた。
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社
ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【赤井智顕 師 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7 電話：077-507-8209 FAX：077-507-9926

御本山御用達　開明社員
井筒法衣店
代表取締役社長　今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷三丁目十四番地二
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902
オンラインショップはこちらから

浄土真宗本願寺派 傷害・医療保険
あんのん医療保険
団体割引30%
（新・団体医療保険〈医療保険基本特約・疾病保険特約セット団体総合保険〉・傷害総合保険）
【加入対象者】浄土真宗本願寺派の住職・僧侶・寺族・門徒およびその家族
病気やケガによる入院や手術等を幅広く補償。（天災によるケガも対象）
◆1日5,000円プランより　◆入院1日目より補償
★新規加入は満79歳まで、継続加入は満89歳まで拡大
がん・介護 特約 新登場
がん特約　がん診断一時金　がん通院治療費用 にかかる特約もセット可能
介護特約　要介護2以上の認定、または保険会社所定の要介護状態が90日を超え継続した場合に、一時金で100～300万円を補償
この広告は概要を説明したものです。詳しくは下記取扱代理店までお問い合わせください。SJ23-09481（2023.10.31 作成）
フリーコール 0120-37-0243
ホームページ
http://www.purani-hongwanjihahoken.com
<取扱代理店>
浄土真宗本願寺派提携代理店 株式会社 プラニ
【代理店所在地】〒600-8109 京都市下京区五条通西洞院西入平屋町 420RM ビル 3F
健康経営優良法人 2024